

一町石

この石柱（町石）は、町石道の慈尊院と高野山の壇上伽藍にある根本大塔を繋ぐ区間の始点を示しています。正確に言えば、参詣者やハイカーは高野山の根本大塔近くにある正式な「起点柱」を最初の町石として数えるため、この町石は実のところ 180 番目の町石です。

町石という言葉は、「町」という昔使われていた 109 メートルに相当する長さの単位と「石」を合わせたものです。この参詣道には、およそ 109 メートルの間隔で 180 の石柱があります。それぞれの高さは 3 メートルで、五輪塔（五重の塔）の形に彫られており、諸仏の中でその町石が表す仏尊の名が刻まれています。町石道沿いにあるほとんどの町石と同様に、この町石も石彫技術が高く評価されていた鎌倉時代（1185-1333）後期に彫られました。